

大企業で導入進むAI-OCRを開発 ホワイトカラーの生産性を向上

手書き文字の読み取り機能や、情報抽出機能を持つAI-OCRを開発。
事務作業の効率化に役立ち、大手企業で続々と採用が進む。
「ホワイトカラーの生産性向上」を目指し、海外市場にも進出する。

株式会社シナモンは、ホワイトカラーの生産性向上を実現するための、人工知能(AI)を活用したソリューションを開発・運営する企業だ。手書き文字の読み取り・データ化や、文章から必要な項目を選んで抜き出す情報抽出などの機能を持つ主力事業のAI-OCR「Flax Scanner(フラックス・スキャナー)」を始め、現在4つのプロダクトの市場開拓を進めている。

同社のCEOである平野未来氏は、ITエンジニアでもある。東京大学大学院在籍時には、研究成果が経済産業省所管の独立行政法人情報処理推進機構の育成事業「未踏ソフトウェア創造事業」に採択された実績を持つ。大学院在籍中の2006年にスマートフォンや携帯

電話向けアプリ開発用プラットフォームの開発会社を起業し、11年に大手SNS運営会社に売却した。

シナモンは翌12年に共同創設者の堀田創氏とともにシンガポールで設立した。同国で設立した理由については「グローバル市場を目指す決めていたから。IT起業家の多くは米国市場を目指す。私はアジアが好きなので、アジア市場での事業展開を念頭にシンガポールに本社を置いた」と語る。

開発拠点は優秀なIT技術者が多いベトナムに置き、当初はスマホ向けの写真チャットアプリを開発していた。だが、業績が伸びず倒産の危機に。その頃、自分や堀田氏がAI研究者であることを漏らすと、顧客の表情が興味津々

なものに変わることが多くなってきた。そこで、AI関連への事業転換を決意し、当面は顧客が日本企業になると見込んで本社を日本に移転した。

AIの応用分野を「ホワイトカラーの生産性向上」に定めた理由は、「当時、大手広告代理店社員の過労自殺事件が連日報道されていた。私は第1子を妊娠していて、生まれてくる子に20〜30年後、同じような働き方をさせてはいけなくて強く思った」(平野CEO)からだという。

ベトナムの開発拠点で 多くのAIエンジニアを確保

フラックス・スキャナーは17年春に開発を終え、18年前半までPMF(プロ



「世界中のホワイトカラーの生産性を向上させるプロダクトをつくっていきたい」と語る平野未来CEO

ダクト・マーケット・フィット)を行い、同年後半から顧客企業への導入が始まった。主な納入先は銀行や保険会社などの大手企業。さまざまな種類の申請書などの膨大な手書き文書のデータ化や、書式の異なる書類から指定項目を抜き出して整える構造的データ化に活用され、担当者の業務負担軽減や人員削減を実現している。

特に既存のOCRでは難しかった情報抽出ができるのがフラックス・スキャナーの強みだ。例えば人物のプロフィール情報の中から、大学名や出身地、生年月日など欲しい情報だけを自動で抽出する。これによって、「履歴書」という同じ名称であってもさまざまな形式があり、項目の記入位置やフォーマットが異なる非定型の帳票から、欲しい情報だけを抽出して整理されたデータにすることができる。

現在、ベトナムのハノイとホーチミン、台湾の台北にAIエンジニアを育成し技術開発を行うAIラボを設置。18年後半には米国にも拠点を設けた。「米国はAIスピーカーや自動運転などの分野のAI技術は進んでいるが、私たちが得意なビジネスAIの分野は遅れていてチャンスがある」(平野CEO)。

同社ではフラックス・スキャナーに続いて音声AI認識技術の「Rossa Voice

(ロッサ・ボイス)」が最終開発段階にきているという。これは、コールセンターのやりとりや会議などの音声データを自動で文章に書き起こすシステム。また、ユーザーと商品情報をマッチングし推奨するレコメンデーションエンジンの「Lapis Engine(ラピス・エンジン)」と、自然言語に対応したチャットボットの「Scuro Bot(スクロ・ボット)」も開発が進んでいる。

「世界中のすべての面倒な業務をなくすことが最終的なゴール。そのためにプロダクトを増やしていく」と平野CEO。「世界一の人工知能開発企業を目指す」と力強く宣言する。

キャピタリストの眼

エンジニアの確保は万全 経営者の熱量にも期待

AI-OCRは非常に市場性がある分野ですが、その中でシナモンには非定型文書の読み込みができるという強みがあります。導入先企業からAI用の新しいティーチングデータを得て、より精度の高い非定型文書の解析を可能にする技術を確立した点も評価できます。

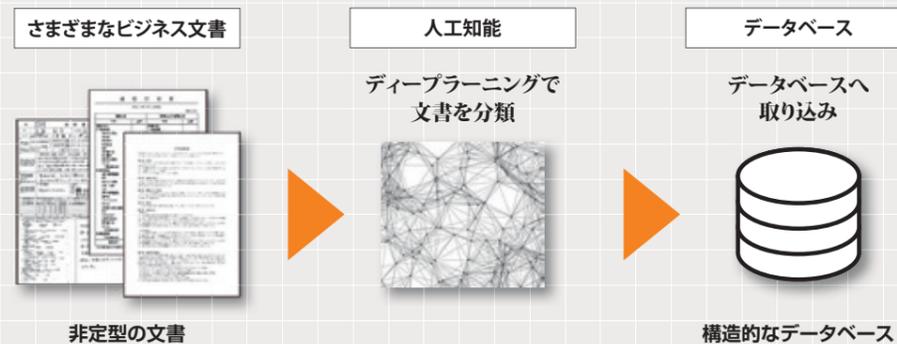
AIのチューニングではAIエンジニアの確保がポイントになりますが、ベトナムのトップ大学と強いコネクションを持っていることは大きな強みです。さらに「当社は世界一になる」と言う、平野CEOの大きな熱量にも可能性を感じています。



SMBCベンチャーキャピタル株式会社
投資営業第二部 次長

井手 剛

Flax Scannerの基本機能



手書き文字をデータ化したり、非定型の文書から必要な項目だけを情報抽出したりといった機能を持つ

Corporate Profile

代表取締役CEO 平野未来
本社 東京都港区東麻布1-9-16
創業 2012年10月
従業員 160人(2019年4月現在)
<http://cinnamon.is/>



ベトナム・ホーチミンにある開発拠点(左/オフィス風景、右/外観)。地元のトップ大学とも密接な関係があり、優秀なAIエンジニアを多数確保している